

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

記

1. 企画名:「シリア難民支援の輪を広げるワークショップ」
2. 【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
3. 出張者氏名(団体名五十音順):阿部真理子
4. 主催等団体名: 明治・立教・国際大学「国際協力人材育成プログラム」
5. 実施場所ごとの日時、場所、集客人数、会場借料、内容、参加者の感想、所感

日時:平成26年6月21日(土)

集客人数: 70名

会場借料: なし

内容:

- 1) シリア難民支援団体・グループ活動紹介

紹介団体:サダーカ、セーブ・ザ・チルドレン、イブラワハイト、学習創造フォーラム、ヒューマン・ライツ・ウォッチ、AAR、シリアの声を届ける映画制作プロジェクト、地雷廃絶日本キャンペーン、日本シリア親善協会、JICA ボランティア、パレスチナ子どものキャンペーン、JIM-NET、IVY の計13団体・グループ
シリア難民が避難している国、日本国内で支援活動を行っている団体が、1分間で自分たちの支援について紹介を行った。IVY の活動は、JPF からの助成金で越冬支援、教育支援を行っていること、また NGO 相談員を受託している団体であることを紹介。

- 2) 3つのグループに分かれ、もっと詳しく各団体の活動を紹介

フィッシュボウルの手法を用い、団体・グループを3つに分け、その周囲を参加者が取り囲み、各団体の活動紹介を更に詳しく行った。

- 3) 参加者との交流

1つの団体・グループと参加者数名がグループとなり、参加者からの団体への質問や相談を受けた。

- 4) まとめ

各グループでどのような話し合いが行われたかを、全体で共有し終了。

参加者の感想、所感

- ・ シリア難民支援に関わっている日本の NGO 団体や JICA 海外協力隊の元隊員のグループ等がこんなにあるとは思わなかった。今日は参加して支援の内容を聞くことが出来、大変参考になった。
- ・ 難民と直接関わっている人たちから、話が聞けたのが良かった。
- ・ NGO 相談員の出張サービスを、このようなイベントにも活用出来ることがわかった。

6. 所感及び成果

ワークショップの定員は70名であったが、募集開始後早い時期に締切りとなった。学生だけでなく、協力隊の OV や国際協力に関心のある市民らが集まり、難民に対する支援の在り方について、活発な意見の交換の場となった。IVY に対して、国際協力における資金集めの方法、市民としての支援の方法などの質問が寄せられた。NGO 相談員制度についても、説明する機会が何度かあり、制度の衆知につながった。

以上

シリア難民支援の輪を広げるワークショップ 写真

- 1, 映画上映の会場の様子
- 2, シリア支援活動内容紹介&NGO相談員制度紹介
- 3, 全体
- 4, グループに分かれての活動紹介
- 5, 各団体に分かれての説明
- 6, ボランティアの学生さんに説明

1.



2.



3.



4.



5.



6.



平成26年6月16日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成26年度 NGO 相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力 NGO センター

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：スタディツアー-EXPO
- 実施日時：平成26年6月7日 14時00分～17時00分
- 場所：早稲田大学 早稲田キャンパス7号館 114教室
- 出張者氏名：渡辺李依

2. 実施内容

スタディツアーを実施している NGO・企業のネットワーク組織「スタディツアー研究会」、日本社会において国際協力の理解促進をはかる「なんとかしなきゃ！プロジェクト」および早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターの共催で実施された「スタディツアー-EXPO」にて、NGO への就職・参加に関する相談対応を実施した。

当日の来場者数は73名で、多くが大学生、中でも女性が多かった。当センターのブースには10名が訪問し、NGO への就職やインターン参加に関する相談を受けた。

3. 所感

本イベントは、夏休みを控えた学生をターゲットに、開発途上国の現状や途上国の社会課題解決に取り組む NGO の活動の視察や現地の人々との交流を通して、国際協力活動を知るスタディツアーの理解・参加促進を目的として開催された。来場者数が当初の見込みを下回り73名であったが、その内10名がブースを訪れた。来場者からの質問は下記の通り。

- ① NGO の仕事・就職について
(仕事の種類、求人情報の入手方法、求人サイクル・求められている人材、必要な経験・学んでおくべきこと)
- ② NGO でのインターンについて
- ③ NGO でのボランティアについて
(美術のデザインスキルを活用した活動、途上国の現場で一定期間経験を積める活動)

上記に対し、①に関しては、当センターが一般市民向けに開催している NGO 就職ガイダンスの内容に基づき、情報を提供した。②に関しては、当センターへのインターンに関心があったため現在募集を行っている広報および渉外担当の業務内容と勤務スタイルを伝えた。③に関しては、日本の NGO55 団体を掲載した NGO ガイドや当センターWEB サイト内の「NGO 情報掲示板」を参考に、参加機会のありそうな団体を紹介した。

今回の出張サービスに関しては、必ずしもイベントの主旨に合致したリソースを当センターが持っていなかったこと、事前の広報が充分ではなかったという条件があったが、スタディツアーに興味・関心のある層に対して、ツアー経験後、またはツアー以外の NGO 活動への参加機会を提供でき、本出張サービスは意義があったと考える。

【相談対応の様子】





以上

平成 26 年 7 月 10 日
特定非営利活動法人 難民支援協会

NGO 相談員 第 1 回出張サービス報告

(i) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

1. 団体名：特定非営利活動法人 難民支援協会
2. 企画名：第 10 回移住労働者と連帯する全国ワークショップ・仙台 2014
(出張者氏名：石井宏明)
3. 実施予定日時：平成 26 年 6 月 7 日(土) 13 時 ~ 8 日(日) 12 時
4. 実施場所：茂庭荘(もにわそう) 宮城県仙台市太白区茂庭字人來田西 143-3

(ii) 実施内容：

このワークショップは、全国で外国人およびその子どもたち、労働者などを支援している、NPO、教育機関、医療機関、行政で働く職員らが一堂に会し、国および各地での多文化共生政策、外国人の状況などを話し合う場として、ほぼ毎年開催されている。

その中で、とくに近年日本への認定申請が急増し、各地の外国人支援団体間でも関心が高くなっている「難民」について専門的な知見がほしいということで、「難民・収容」というテーマの分科会が今回初めて設けられ、そこに「基調講演」的な役割で参加を要請いただいた。

初日は各分科会での議論が実施された。NGO 相談員制度の概要を説明した後、日本の難民受け入れ制度の概要(最近始まった第三国定住難民受け入れを含む)、難民および申請者が置かれている状況、さらに国内難民支援 NGO ネットワークの紹介と支援内容等を説明したうえで、それぞれの団体が難民のために地域で何ができるか等のディスカッションを行った。後半では、保健医療従事者のグループも加わり、2 年前の外国人在留制度の抜本的な改正以降各地で起きている(とくに保健医療分野の)変化と、それによって難民・難民申請者がどのような影響を受けたかについて紹介したうえで、専門家の視点も交えて濃い話し合いが行われた。

2 日目には全体会が開催された。初日の各分科会のまとめと、移住連としての今後の活動方針が話し合われる場で、初日の分科会で話し合った内容をすべての参加者と共有した。全体会でも 1 日目の内容を踏まえた発表の機会をいただいた。それにより、とくに新在留カード制度が始まって以降の各自治体で起きている変化について、移住連の各団体が共通のフォーマットを使って各地で聞き取りを行うこと、データの一元化をはかることなど、具体的な対策がはかれることになった。

(iii) 集客人数または相談対応件数

1. 初日分科会：約 15 人(途中退席、参加もあり)

2. 2日目全体会：約 120 人

(iv) 所感および効果等

NGO 相談員の出張サービスとしては初めての対応だったため、先方に NGO 相談員の趣旨を理解していただくことからはじめ、多少戸惑いがあったものの、出張サービス相談の手ごたえを感じることができた。外国人支援をしている方であっても、(日本に來ている) 難民についてはほぼ初めて詳しく聞くという方も多く、そのような方に広く日本にいる難民の状況を知らせる機会となり、議論や相談を通じて、今後の自分たちの団体の活動にも活かしていけると感じた方等も多く、おおむね高い評価を受けた。

一方で、なぜこんなに日本で難民申請者が増えたのか、また行政の難民への対応についての疑問など、わたしの知識でも応えられない内容の質問、疑問も多く寄せられた。こういった専門的で深層を聞くような疑問にもできるかぎり応えられるような体制を、組織としても持つようにすべきなどの、当方の学びも多くあったと感じている。

(v) 写真 ※まだ NGO 相談員広報物が団体に届いていなかったため、ポスター掲示がありません。

1 日目：分科会





2日目：全体会での発表



以上

2014 年 7 月 8 日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

5 月 30 日付貴信にてご承認いただきました、NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名：海外ボランティア・スタディツアー合同説明会内での NGO 相談コーナーの設置

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他】

2. 出張者氏名：（特活）名古屋 NGO センター 田口裕晃

3. 催しの概況：

実施日 2014 年 6 月 7 日(土)13:30～16:00

場 所 名古屋国際センター5F 第 1 会議室(名古屋市中村区)

対象者 学生・社会人など 42 名 相談対応件数 9 件

概 要 中部地域の NGO が行う海外スタディツアーの合同説明会で、NGO 全般についての質問やスタディツアーの基礎について説明するコーナーを設置し、相談に対応した。

4. 実施内容：



●主な相談内容は以下のとおり。

- ・NGO で就職したいと思っているがどうやって求人情報をさがせばいいか。
- ・スタディツアーに参加するときに持っていった方がいいものがあれば教えて欲しい。
- ・スタディツアーに参加する際に海外旅行保険を使おうと思っているが、こういったプランがオススメか。
- ・名古屋 NGO センターが実施する NGO スタッフ育成研修について詳しく教えてほしい。
- ・水浄化装置を作ったが、どこか活用してくれる団体はありませんか。

学生～定年退職者まで幅広い参加者からの相談を受けた。海外ボランティア・スタディツアーについて、名古屋にある NGO を紹介してほしい、NGO スタッフになるためにはどうすればいいか等の基本的な相談が多く寄せられた。自分自身の経験を踏まえて具体的に伝えるように心がけた。

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

NGO相談員による出張サービス実施報告書

6 月 10 日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 学生アゴラ 2014~~つながろっ♪世界と地域と私大交流会～

【形態 : 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】

2. 出張者氏名 : (特活) 名古屋 NGO センター

外務省 NGO インターンプログラム生 白井悠

3. 催しの概況 :

実施日 2014 年 6 月 22 日 (日) 13 : 00～17 : 00

場 所 生協生活文化会館多目的ホール (愛知県名古屋市千種区稲舟通 1-39)

対象者 学生、社会人など一般。

うち、ブースに訪れた人は約 50 名、相談者は 21 名。

概 要 加盟団体のココアゴラが主催するイベント。中部地域で国際協力・国際交流などに関心がある学生や 20～30 代の社会人が対象のイベントで、当団体はブース出展し、相談に対応した。中部地域で募集しているボランティアやイベント、インターンなどの情報を伝え、「NGO と NPO の違い」などの疑問に答え、相談対応サービスを行った。

4. 実施内容:



●主な相談内容は以下のとおり。

- ・ 国内で海外に関わるボランティアはあるのか？
- ・ 栄・伏見駅周辺で募集しているボランティアはあるか？
- ・ NPO/NGO の違いは何か？
- ・ 夏休みに海外に行きたいが、ツアーを募集している NGO 団体はあるか。
- ・ インターンの勤務時間や内容について。

短期から長期、英語などの能力がなくても参加できるボランティアの情報を集めて紹介した。また、PC を持込、現在募集しているボランティア・インターン・職員募集、近日中に開催されるイベントなど、できるだけ新しい情報を提供できるように心がけた。

平成 26（2014）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 黒河内政行

1. 企画名：「第 10 回スタディツアー合同説明会」NGO 相談員ブース出展

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成 26（2014）年 6 月 14 日（土） 13 時 30 分～17 時 00 分

場所：キャンパスプラザ京都 2F ホール

（京都府京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939）

主催：株式会社マイチケット、龍谷大学ボランティア・NPO
活動センター、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会

出張者名：榛木恵子、黒河内政行

2. 実施内容：

今期夏から秋に、NGO や市民団体が開催予定のスタディツアーの合同説明会である。共催団体の龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターの広報力により、来場者の大学名に新たな校名が数校あり、スタディツアーや国際協力に関心を持つ学生で終始、賑わっていた。少人数であるがシニア層からの来場もあり、NGO 相談員ブースを活用されていた。

最初に、「スタディツアー入門」として NGO のスタディツアーの特色についての説明があり、その後、各団体のブースで実施されるツアーについて、来場者に向けて様々工夫を凝らしたアピールが行われていた。

当会は、国際協力、NGO について理解を深めて、スタディツアーに参加することから国際協力の担い手が増加することを目的として、NGO 相談員ブースを出展している。毎回、出展しているため NGO 相談員の存在を知っている参加者も多く、NGO に対する疑問や、相談ができる場として好評である。相談者が途切れることはなかった程である。

3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：71 人、ブース出展：11 団体

4. 所感及び効果等：

参加者の多くが学生で、スタディツアーの具体的な質問とともに、NGO についての様々な内容の相談があった。

相談者が求める情報だけでなく、相談者の質問から、できる限りニーズや知見の把握、理解に努めた。客観的な立場から情報を提供し、継続して情報が入手可能な方法を紹介した。

「フェアトレードに興味がある、説明してほしい」との相談には、フェアトレードの説明後



に、関西の NGO スタッフが作成している国際情勢全般から最新のフェアトレード情報、イベント開催が掲載されているメールマガジンを後日発信することを約束した。相談後、相談者が必要としている情報については、できる限り対応している。

相談に来る大学生は、以前相談に来られた相談者からの紹介というケースもあるので、出張サービス中だけではなく、最後まで対応するように心がけている。また京都地区での出張サービスのため、以前からメールで相談を続けていた京都府の相談者に来場していただき、対面での相談により疑問の解消に繋がった。スタディツアー、NGO の活動、ボランティア参加、進路相談、フェアトレードなど、幅広い相談に対応した出張サービスとなった。

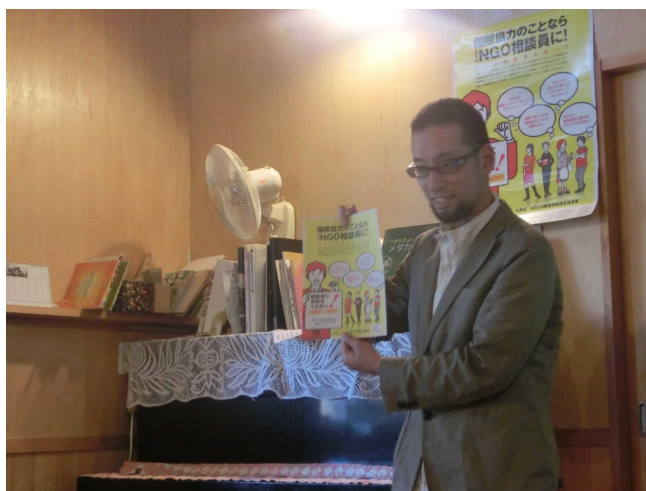
以 上

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「はらっぱ保育所での国際協力・国際理解についての講演」
※出張形態：講演
2. 出張者：坂西卓郎（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2014年6月7日（土）13:00～15:00
4. 場所：はらっぱ保育所
（兵庫県西宮市中殿町 6-32）
5. 対象者：NPO はらっぱのメンバー、園児の保護者など32名
6. 実施報告：NPO はらっぱより総会にあたって基調講演をしてほしいとの依頼があり、NGO 相談員として国際協力についての講演を行うこととなった。
講演内容はとしては保育園関係者向けに国際協力や国際交流について丁寧に説明を行った。まず冒頭に NGO 相談員制度の解説と国際協力概論を行い、その後、保育をテーマとした国際協力の実態やあり方について講演を行った。講演の最後には当会のインドネシアの研修生、メラティ・アフリダ氏にも現地での保育事情などについて語ってもらい、国際協力について理解を深める時間を持った。
対象者が上記のように保育園関係者ということで、入門的な内容を丁寧に説明するよう心掛けた。講演終了後にはティータイムがあり、はらっぱ保育園自家製のお菓子などを食べながら談笑の時間を持った。その中でいくつか質問を受けたが、「国際協力に参加するにはどうすればいいのか」、「バザーなどはないのか」と忙しいと思われる子育て世代ではあったが、自分たちの日常生活の中でできることがあれば協力したいという姿勢を示してくれた。NGO 相談員として国際協力に関心を持ってもらうということは一定うまくいったと思われる。
また本制度の趣旨からしても、今後社会を担っていくであろう世代にアプローチできたのは有益だったと感じている。上記のように仕事に子育てにと忙しい世代ではあるので、すぐに海外に行くとか本格的に国際協力活動を開始するというのは難しいようだが、将来においては期待ができると思われる。また自分の子ども達に国際交流や国際協力に関わってもらいたいという思いもあるようなので、その点に関してフォローすることで、家族、そして地域として関わってくれる可能性もあると感じた。当会の活動エリア内であるので、今後もアプローチを続けていきたい。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「はらっぱ保育所での国際協力・国際理解についての講演」の様子①
NPO はらっぱのメンバー及び園児の保護者に国際協力及び NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「はらっぱ保育所での国際協力・国際理解についての講演」の様子②、③
②NGO 相談員制度及び国際協力の概要について解説中
③講演の最後にインドネシアの研修生メラティさんに村の様子や保育事情について話してもらった。

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 1. 企画名：「国際協力人材育成セミナーin 関西」
※出張形態：相談対応ブース
2. 出張者：井上理子（（公財）PHD協会職員）
黒河内政行（（特活）関西 NGO 協議会事務局スタッフ）
3. 実施日：2014年6月21日（土）9：30～16：20
4. 場所：JICA 関西（兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2）
5. 対象者：国際協力の分野で働きたい、又は関心のある大学生・大学院生。
6. 実施報告：外務省国際機関人事センター、国際機関、及び開発コンサルタント企業や NPO/NGO 等の協力により、JICA 関西において、「国際協力人材セミナー in 関西」を開催しており、今回はこのセミナーで相談対応業務を行った。
JICA をはじめとする国際協力実施機関が会場に集結し、人材に求める資質や能力等について紹介するとともに、JICA 及び各機関・団体の業界動向等についての解説や国際協力分野で勤務している講師から現場の生の声や実態、仕事のやりがいなどを聞くことができる内容になっている。（公財）PHD、（特活）関西 NGO 協議会は共同で会場入り口に設けられた資料配下コーナーにブースを設置し相談を受け付けた。さらに昼食時に行われた各セクターの一問一答のコーナーでは来場者の相談に 2 人体制で個別に応じたが、時間の制約があったため必要に応じて、コーナー終了後に個別での相談も行った。セミナー参加者の多くは、JICA、開発コンサルタント企業、NPO/NG などの国際協力セクターへの転職・就職、インターン、ボランティアなどを希望する人が多かった。他分野にわたる相談内容であったため参加者も大学生・大学院生から会社員、教員、コンサルタントの方まで幅広い年齢層の方が来場した。また、青年海外協力隊 OB から NGO の設立に関する相談や他にもシルバー層からのボランティアに関する質問もあり、多様な相談に対応する出張サービスとなった。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を2枚添付



①会場入り口での相談対応中の様子



②各セクターに分かれた相談員ブースで相談対応中の様子



NGO 相談員による出張相談実施報告書

1. 出張相談概要

団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

出張者：義若香緒里

企画名：難民について知ろう

【形態：講演】

実施日時：2014 年 6 月 25 日（水）11:35～12:20

実施内容：当団体のイラクにおけるシリア難民支援についての事例を挙げながら、難民について、NGO について、世界で起こっている出来事について学ぶ。

依頼元：岡山県高梁市立富家小学校
(6 年生 9 名)

2. 実施内容

まず最初にピースウィンズ・ジャパンの団体紹介を通じて、NGO についての説明を行うと共に、NPO との違いについても説明した。主題であるシリア難民支援の話に入る前に、難民とは何か？を問いかけ、どういう人達のことを難民というのか、理解して貰った。

実際にシリア難民についての話をする際は、当団体が行っている支援内容の写真を見ながら、難民キャンプが出来るまで、難民キャンプでの生活、難民キャンプで起きている問題などについて説明した。実際に行われている支援内容を決めるにあたり、イラクの気候や食事、文化なども考慮されていることを伝え、子ども達自身にイメージが湧きやすくなるようにした。

講演を終えた後、子ども達から質問をして貰う時間を多く取るようにした。事前学習として既に様々なことを調べており、イラクだけではなく当団体が行っている世界各国の支援内容に基づきながら、「仮設住宅が作られる土地はどのように決まるのか？」「南スーダンで今何が一番困っているのか？」など、勉強の成果が表れる積極的な質問が多数出た。



3. 所感および効果等

シリア難民が現在どのような状況下に置かれているか、現地での状況を交えながら伝えることが出来た。また、イラクの気候や食事、文化など、日本と比較しながら説明し、実際に遠く離れた国で起きている出来事を、少しでも身近に、自分のことのように感じられるようにした結果、子ども達からも驚きや感嘆の声を聞くことが出来た。

子ども達が事前学習として調べていた内容で疑問に思ったことを質問して貰う時間を多く取れたことで、イラクだけではなくケニアや南スーダン、東ティモールなど、世界中の出来事について説明することが出来た。休み時間にも「今まで大変だったけれど、元に戻ってきている国はあるのか?」、「今一番大変な国はどこか?」という質問を受け、国際協力について更に興味を持った様子が伺えた。

加えて、職員自身の国際協力の仕事に就いた経緯も話す時間を持つことができ、国際協力の仕事を子ども達に伝える良い機会になった。

※今回の講演は、NGO 相談員としての講演であることを説明した。また、H26 年度 NGO 相談員のポスターがまだ届いていなかったため、データをカラーコピーして学校側に伝えた。

報告者：ピースウィンズ・ジャパン
管理部 義若香緒里

平成 26 年 7 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内 よし子

NGO 相談員による出張サービス実施報告

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「国際理解教育をととして地球市民としての素地を育む」
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】
出張者氏名：高山 莉菜
2. 依頼元／主催等団体名：高知工科大学マネジメント学部
3. 実施日時：平成 26 年 6 月 3 日（火）10:40～12:10
4. 実施場所：高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185 高知工科大学
5. 参加人数（受講者数）：マネジメント学部学生 60 名
6. 実施内容および所感、効果：

高知工科大学ではマネジメント学部の学生を対象とした NP0 論が開講されており、当団体の竹内よし子が講演を行った。同年代の学生に親しみやすい相談対応をしてもらいたいという依頼があり、出張サービスとしてブースを設置し相談に応じた。発展途上国への支援に興味を持つ学生に対し、モザンビークでの裁縫訓練や ESD 刺繍リレーの取り組みについて紹介するとともに、下記の通り、学生からの質問・相談に対応した。

[相談件数] 3 件

[主な対応内容]

- ① **相談内容** 「ESD」について、言葉が難しいのでもっと分かりやすく説明してほしい。
対応 四国での具体的な ESD 実践事例を紹介し、地域の課題に気づき、課題解決のために行動できる「人」を育てることだと説明した。また、ESD マンガや ESD の愛称など具体事例を紹介することで、ESD を身近に感じてもらえるよう工夫した。
- ② **相談内容** モザンビークでの暮らしについて知りたい。
対応 モザンビークの首都と支援先の村との生活の違いや、そこで暮らす人々の様子などについて、自身の滞在経験をもとに説明した。

③ **相談内容** NGO で働くようになったきっかけを教えてほしい。

対応 自分が学生時代に取り組んでいたことや、NGO でのインターンシップでの経験などについて説明した。学生のころから NGO と関わりを持ち、実際に現場で体験させてもらうことで得られる、ものの見方、考え方が現在 NGO で働くなかで非常に役立っていることを伝えた。



(四国での ESD の取り組みを説明)



(ESD 刺繍リレーの実物を手に取って商品開発を考える)

以上

平成 26 年 7 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告いたします。

記

1. 企画名：いのちをつなぐアースハーモニー2014～糸を紡いで幸せはんぶんこ～
(イベント会場においての相談対応サービス)
2. 出張者氏名：當銘優香、大仲るみ子、玉城直美
3. 実施日時：平成 26 年 6 月 1 日（日） 9 時 00 分～18 時 00 分
4. 依頼元／主催団体名：いのちをつなぐアースハーモニー実行委員会
5. 実施場所：沖縄キリスト教学院大学 SHALOM 会館
6. 実施内容：沖縄県内のフェアトレードショップと NGO 団体が一同に集まり、世界で起きている問題に触れ、私達ができることを考えるきっかけを作るイベント「いのちをつなぐアースハーモニー2014」を実施し、イベント会場にてワークショップの実施や相談対応を行った。バングラデシュの衣料工場で働く女工たちを撮ったドキュメンタリー上映と県内在住のインド、ネパール、バングラデシュ出身のゲストスピーカーを迎えトークイベントとバングラデシュの衣料工場とスカイプをつなぎ働いている方にインタビューしながら、現地に想いを馳せた。イベント会場内で相談ブースを設け、相談員事業の広報や相談対応を行った。フェアトレードに関する質問や感想が多く聞かれた。
7. 参加者人数：総勢 200 名（映画 3 回上映、トークイベント 1 回の総合計）
8. 所感及び効果

今年で 8 回目の実施となり、来場者は学生や社会人、10 代～70 代が参加した。普段、身に着けている服の生産者、生産地に想いを馳せながら、参加者同士での意見交換を通して、世界で起きている課題に向き合った。バングラデシュ、ネパール、インドに関する質問やフェアトレードに関する質問が寄せられた。また、実際にものづくりをしている生産者の立場の女性からは、自身のフェアトレード構想に関して、学生と勉強会をして意見を聞き、可能性を探りたいという相談（要望）が寄せられた。参加者同士、参加者と団体会いにつながる機会となった。

